



9 月号

平成 30 年 9 月 1 日発行
 【発行所】〒168-8510
 東京都杉並区高井戸西 1-12-1
 社会福祉法人 浴風会
 京極 高宣
 TEL (代表) 03-3334-2101
 http://www.yokufukai.or.jp/
 【編集者】露口 長
 【印刷所】株式会社サイド・ビー



阿佐谷の七夕祭りに第三南陽園から出展した金魚飾り

地域にあつて輝く社会福祉法人であるために

全国社会福祉法人経営者協議会 会長
 (全国社会福祉協議会 副会長) 磯 彰格



戦前には高齢者の養護を担い、戦後は高齢者福祉を中心とした福祉事業を担ってこられた浴風会は現在、高齢者福祉・介護・医療・保健、認知症介護研究・研修等の多様な事業・活動を展開されておられます。そして、法人創立100周年に向けて、地域住民の福祉ニーズに積極的に応えるべく、在宅医療・在宅介護・訪問リハビリなどの推進による事業の拡充を図り、「地域と共に未来を拓く」浴風会を指しておられる役職員の皆様に心から敬意を表します。

私も全国社会福祉法人経営者協議会も昭和56年に発足以来、社会福祉施設を経営する社会福祉法人を会員として、法人の経営基盤強化、福祉施設の機能充実と健全な施設運営を目的として活動を続けてまいりました。現在は全国で7900を超える社会福祉法人にご加入いただいております。

この間、わが国の社会福祉制

度には介護保険制度の導入などにより、措置制度から契約制度へと大きな制度の転換を経て、利用者自身がサービスを選択し、契約する時代を迎えました。社会福祉制度改革により社会福祉法人の経営環境は大きく変化するとともに、民間企業やNPO法人など多様な供給主体が福祉サービスに参入することにより、事業者間での競争の激化が進むことになりました。

歴史的に見れば、社会福祉法人は社会的弱者を救済し、既存の制度にとらわれず、生活全般における相談支援活動を含め、総合的に地域の福祉を支えてきました。しかしながら、福祉ニーズが多様化・複雑化している近年にあつて、社会の目は、新たなニーズに積極的に対応するNPOに対し、ともすれば制度事業の範疇に留まり、新たな福祉ニーズへの対応にはやや消極的な社会福祉法人という残念な評価も見受けられるところとなりました。

そこで、社会福祉法が改正される中で社会福祉法人のあり方を抜本的に見つめ直すことが求められ、社会福祉法人の透明性の向上、財務規律の強化、そして地域における公益的な取り組みを実施する責務が規定されました。

これからの活動については、「地域共生社会」の実現に向け、社会福祉法人はより積極的に地域や社会の皆様に対して能動的な働きかけが求められるとともに、その活動についてホームページや広報誌などさまざまな媒体、機会を通して発信し、ご理解をいただくことが大切になります。まさに浴風会のモットー「地域と共に未来を拓く」活動の展開が求められているのです。

この間、わが国の社会福祉制

そこで、社会福祉法が改正さ

我われの実践の真価が、社会や国民から問われています。浴風会の役職員の皆様とともに、社会福祉法人の発展・充実を期して共に活動していきたいと考えています。

— 浴風会秘話 —

陸軍接收時代の話を聞く

川崎 貞^{ただし}

戦時中の昭和17年9月から終戦の昭和20年8月まで、浴風会本館は、陸軍中央特種情報部によって接收されていた。

7月26日、福島中央テレビの取材のため久しぶりに浴風会を訪れた長谷川良治さん(旧軍人で、陸軍が浴風会を接收していた時の生き証人)が主役で、正門前、本館玄関、本館1階西旧病棟、本館搭屋最上階などで、当時の話を撮影していった。

長谷川さんからの聞き書きは、浴風会誌317号「暗号解読部隊の終焉」にも紹介してあるが、その時のNHKの取材を端緒として、色々なマスコミからの取材が申し込まれ、イギリスからの取材もあったという。また、あちこちに呼ばれて話をすることも増えたという。奇しくも8月15日が誕生日で、満95歳になるといってお元気で、インタビューで次のようなお話を聞かせてくれた。

「参謀本部だったら守衛や営兵もいるが、ここにはいなかったのでもそのまま入って来れるし、西村少将には護衛もついていないところでした。だから、参謀本部に比べると堅苦しくはありませんでした。お客さんが来た時には声が掛かって、1階の執務室から2階の応接室までお茶を運んだものでした。お客さんの名前は一々聞かされませんでした、顔

を覚えておくように言われたことはありません。スパイを警戒していたのではないでしょう。下宿に呼ばれて何回かお酒をごちそうになることもありましたが、閣下は一般社会や市民の様子を知りたい気持ちがおありになったのではないかと思います。

広島の場合も同じ顔をしておられました。今まで出会ったことのない顔でした。2度目です。その頃から、もう日本はお手上げということは、我々の所はわかってましたから、8月の11日から、暗号書を焼き、名簿を焼くというのを、本館搭屋の中でやったわけです。初めは一人でした。皮のトランク、ボストンバッグを幾つもそのまま焼くのですから、灰になっても残ったら駄目なわけで、粉々にする訳です。明治時代からの暗号書が幾つもある。一人では無理ですと言ったら、もう一人つけてくれました。14日には終われと言われていたので、徹夜でやりましたが、窓を開けることもできないので、息も出来ず、煙だらけで苦しかったです。重要でない出勤簿とかそんな書類は外で焼いています」

本館最上階の部屋の内部は、今でもその時の煤で汚れたままである。

(浴風会参与)



「浴風会キャラバン・メイト」活動に 発足から参加して



浴風会病院ケアリーダー 河西 真二

「浴風会キャラバン・メイト」の会は、浴風会各施設の職員で構成され、第三南陽園を事務局とし、現在、資格を持つ15名で活動しています。発足は平成26年度で、浴風会各施設のメンバー9名で始まりました。当時は、認知症サポーターキャラバン事業が平成17年に開始されてから約8年経過しており、「認知症を知り地域を作る10カ年」計画の最中でした。認知症対策において、少しでも地域住民の方たちが「認知症についての正しい知識を持ち、認知症の人や家族を支えることができること」を目的として、当会は発足しました。

昨年、7月に発足した地域公益活動推進本部に会組織を組み入れ、法人全体の地域貢献活動として位置づけられました。

「キャラバン・メイト」は、厚生労働省による「認知症サポーターキャラバン事業」により、自治体事務局等と協働して地域や職域、学校等で認知症サポーターの育成を行う役割を担っています。認知症高齢者の将来推計が2025年には約470万人に達する状況の中で、高井戸周辺地域のリーダー役として、「認知症になっても安心

して暮らせる町づくり」に向けて、関係機関・組織・団体等への働きかけや、協力・連携体制づくり、ネットワーク化を推進しています。

活動は、毎月1回、定期的にミーティングを行っています。ケア24高井戸と提携して、毎年、高井戸中学校や富士見丘小学校(写真)の先生方と事前に講座内容を打ち合わせしながら、講座を開催しています。小



学生は集中できる時間が短く、中学生は思春期で多感な年頃でもあるので、演劇やクイズ、ロールプレイング等を取り入れながら、少しでも生徒達に理解をしてもらえようように、メンバー間で相談しながら案を出し合い、頑張っています。又、地域住民向けの認知症サポーター講座や杉並区からの依頼で企業対象に認知症サポーター・フオローアップ講座も開催しています。他病院から看護職員対象に講座開催を要請されることもあります。杉並区で開催する「キャラバン・メイト連絡会」にも出席し、浴風会内だけではなく、他キャラバン・メイトとの横の繋がりがや情報交換・共有にも努めています。

現在は、9月に実施される富士見丘小学校の講座と、杉並区で初めてエントリーする「RUN伴」に向けて活動中です。会が発足して4年、活動範囲はまだ小さいですが、これからも少しでも「認知症」への理解を地域社会に広げていくために、様々な努力を重ね、「浴風会キャラバン・メイトの会」活動の輪を大きく大きく広げていきたいと思っています。



浴風会の動き (8月)



南陽園で開催された夏祭り

【本部事務局】

7日 忠南大学看護学研究科(韓国)大学院生12名見学。

9日 日本経済研究センター小林健一主任研究員見学。

10日 関東財務局介護サービスの経営状況等の実地ヒアリング調査。

24日 杉並福祉事務所ソーシャルワーク実習学生4名見学。(浅井)

浴風会ケアスクール

Caféオレンジリボンウッド

2日〜毎週木曜日 介護福祉士実務者研修8期生9期生スクーリング。受講生20名。講師・瀧浪美也子氏。

7日 介護職員初任者研修11期生修了式。

21日 特別区職員互助組合介護講座「知って安心 介護の準備①いざという時の心構え」参加者34名。講師(職員)百瀬、服部。

24日 アートボランティア養成講座 定員30名。講師・並河恵美子氏、近田明奈氏(職員)君島、服部。

caféオレンジリボンウッド開店。来店者61名。今回は9月10日11時30分〜15時 本館1階第三会議室にて開店いたします。パン、焼き菓子、コーヒーの他素敵な小物の販売と、折り紙など一緒に楽しめる手作りコーナーもあります。みなさまのご来店をお待ちしております。杉並区福祉事務所ソーシャルワーク実習。

27日 介護職員初任者研修12期生開講式。受講生19名・講師(職員)服部。

28日 アートボランティア養成講座、ワークショップ「造形」実施場所・南陽園

29日 アートボランティア養成講座、ワークショップ「音」実施場所・第三南陽園

31日 豊島区受託事業、豊島区ケアマネ対象4回連続スキルアップ研修 定員60名。講師・渡部律子氏、加藤充良氏、國安眞理氏、谷澤隆子氏(職員)服部。(鈴木)

【老人福祉事業】

浴風園 (養護老人ホーム)

1日 納涼祭を開催しました。昼食は焼きそば、太巻き、豚汁、つくね、枝豆などのお祭りメニューをご用意し、職員によるアトラクションもお楽しみいただきました。午後は職員やボランティアさんによる縁日を行いました。射的、ヨーヨー釣り、輪投げ、ゼリーつかみ、アイスクリームの模擬店を開き、皆様笑顔多くご参加下さいました。射的で商品を獲得された際はひととき大きな歓声があがっていました。夕食後は建物前の広場で打ち上げ花火会を行いました。

13日 1階ダイナミックでトウモロコシを食べる会を開催しました。畑で育てていたトウモロコシは異常な猛暑のためか残念ながら不作に終わってしまいました。が、来年の豊作を祈念し、施設で用意したトウモロコシを皆様と一緒に味わいました。(宮崎)

松風園 (軽費老人ホーム)

7月30日 五十六回目の開園記念日を迎え、昼食にお祝い膳で利用者の皆様と祝いしました。今年も、邦楽リトミック和楽らんどの子供たちがお琴の演奏を披露してくれました。2歳から中学生までの10人の子供たちの一生懸命な演奏に、利用者の皆様も楽しいひと時を過ごしました。



2日 昼食時に納涼大会を行ないました。中庭では焼き鳥、紙コップで枝豆すくい、生ビール等の模擬店を開店し、食堂内では輪投げや盆踊り、また高井戸こだま会の皆様や和太鼓クラブによる太鼓演奏が披露されました。職員も浴衣姿も好評で、利用者の皆様、職員ともに楽しい時間を共有しました。(宮中)

浴風会ケアハウス

2日 夏の絵をテーマに絵手紙教室を開催しました。

8日 台風13号が接近していたため、皆様のご協力を頂きベランダ周囲の環境整備と清掃を行いました。

23日 年に一度のお食事イベント「デザートバイキング」を開催しました。甘いものは永遠に別腹です。(隈本)

【介護保険事業】

南陽園 (特別養護老人ホーム)

7月27日は、第三南陽園・グループホームひまわりと合同で「花火大会」を行いました。ご利用者、ご家族の他、ご近所の方もたくさんご参加いただき、次々と上がる花火を楽しみました。

7月28、29日は、富士見ヶ丘商店街のお祭り「七夕踊り流し」でした。29日はあいにくの雨でお祭りには行けませんでしたが、30日は雨も上がり、ご利用者のみなさまと一緒にお祭りに出かけました。

屋台料理に舌鼓、サンバの踊りに大興奮。楽しいひと時となりました。(丸山)



南陽園在宅サービスセンター (認知症対応型通所介護)

今夏は記録的猛暑が続く、体調管理にご苦労されたと思います。また台風の影響による豪雨などがありました。サービスは休むことなく、ご利用いただくことができました。

当センターでは、8月より皆様から要望がありました入浴サービスの定員を増やし、ご希望に添えるよう調整をしております。

これからも、地域で暮らす認知症の方やご家族の安心・安全のためにできる限りのサポートをさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。(徳増)

★各事業のお問い合わせは随時行っておりますので、お気軽にご連絡下さい。

◎電話 03-3334-2743 (徳増・工藤)

第二南陽園 (特別養護老人ホーム)

今月は車で近隣の喫茶店やスーパーへ買い物に出かけました。また夕方の涼しい時間には、1階の中庭でナスの収穫やお花の水やりを行いました。

22日 第三者評価の評価機関によるご利用者聞き取り調査が行われました。

27日 各フロアで納涼祭を開催しました。ヨーヨーや射的の模擬店やスイカ割り等、楽しいひと時を過ごしました。傾聴ボランティアの方々を始め多くのボランティアの方に御協力いただきました。(山崎)

第二南陽園在宅サービスセンター

(通所介護、介護予防通所介護)

今年度も、夏休みを利用したボランテニア体験や福祉体験が始まり、高校生や大学生の姿が見られます。日常生活で関わるのが少ない世代との交流とのこと、初日と慣れてきた最終日では、お客様も学生さんも笑顔が多く見られるようになっていけると感じます。(尾蓮)

★見学申し込みやデイサービスへの質問やお問い合わせもお待ちしています。
◎03-3334-2140

第三南陽園 (特別養護老人ホーム)

3〜7日に開催された阿佐谷七夕まつりに、ご利用者の方々がハリ活動で作成した「金魚」のはりぼてを出展いたしました(表紙写真)。直径1メートルの金魚の骨組に、色とりどりの花紙を何枚も何枚も丁寧に重ねて張り、とても素敵な金魚が完成しました。1階に展示してありますので是非ご覧ください。

9日 3階フロアですいか割り大会を開催しました。手ぬぐいで目を隠し「もつ

と右、右!少し左!そのまま振り下ろしてー!」という言葉かけに棒を振り下ろし、勢い良くすいかを割られました。終了後は冷やしておいた甘いすいかを美味しく頂きました。

15日 おやつ選択食の日。コーヒゼリー、マンゴーゼリー、白桃ゼリーの中から好きなものを選び、その上にバナナアイスクリームをたっぷりつけて食べるおやつの日です。ゼリーもアイスもお替りをされる方が多く、夏らしい大好評のメニューでした。(谷口)

グループホームひまわり

3日 スポーツ吹き矢。上手く射ようとみんな狙いを十分に定め、フツと吹き矢を放たれていました。見事に的を射抜けるとうれしそうな笑顔がこぼれていました。

10日 折り紙クラブ。今月は金魚を折ってみました。折り紙を折りながら「昔はよく折り紙で色んなものを折ったものよね。」「なつかしいわね。」と会話に花が咲いていました。

19日 園芸。風船かずらの種を収穫し、袋詰めを皆様に手伝っていただきました。来月の秋祭りに来園された方に配りたいと思います。(村下)

【地域サービス事業】

地域包括支援センターケア24高井戸

東京都では、都市部の地域づくりや仕組みづくりを支援する「東京ホームタウンプロジェクト」というものがあります。事務局は、委託を受けたNPOが担っていますが、様々な団体も関わりながら運営されています。今回、「ライフシフト

プログラム」に杉並区の生活支援体制整備事業の第1層、第2層コーディネートと一緒に参加しました。

福祉とは全く関係ない仕事をしている方々が、NPOが何を求めているのか?を色々質問しながら把握し、その目的の為に自分達の出来る事を絞って行く。自分の価値観よりは、目的の為に専門職として何が出来るとか?を考え進めました。

また、「地域と関わる事も悪くないかな?」と参加者が変化してきた様子を見て、違う世界を知る機会があれば、人は繋がって行く事ができると実感し、目指す「地域包括ケア」とは、福祉関係者だけでなく、地域で暮らす住民と一緒に「目的を共有」して創って行く事の重要性を学びました。これからの地域づくりに活かしていければと思います。(尾関)



杉並区地域包括支援センター ケア24高井戸

◎電話03-3334-2495

【病院事業】

浴風会病院

杉並区の方の後期区民健診が始まりました。10月から3月に誕生日を迎える方の申し込みをお待ちしております。また、前期区民健診は10月末までとなります。9月までの誕生日の方は、お早めにご予約ください。

また、健診センターでは、追加健診としてお受けいただける左記の健診コースがございます。

「胃がんリスク検診」「骨密度検診」「動脈硬化検診」「肺がん検診」

受診をご希望の方、詳しいご説明が必要な方は担当までお問合せ下さい。お電話でのご予約は、月曜〜金曜(祝日を除く)午前9時から午後5時までです。(中澤)

予約電話 ◎03-3332-6511 (代表) 健診担当 立川

老健くぬぎ (介護老人保健施設)

23日 2階の入所者を対象に「納涼祭」を開催しました。かき氷やヨーヨーなどの出店を出したり、盆踊りなどで盛り上がりしました。

27日 29日 デイケアでも「夏祭り」を行いました。3日間のみでしたが、的当てやヨーヨーで楽しみ、かき氷もお好みの味で召し上がっていただきました。

10月に「浴風会つながるフェスタ」の開催を予定しております。浴風会全体のイベントで、老健くぬぎでも施設内の見学会を実施しますので、皆さまの御越しをお待ちしております。(森屋)

★入所・デイケア・ショートステイご利用のご相談はお気軽にご連絡ください。
◎03-5336-7701 (代表)
◎03-5336-7734 (入所)
◎03-5336-7704 (デイケア)

【研究・研修他】

認知症介護研究・研修東京センター

8〜9日 第5回認知症地域支援推進員研修(大阪市・232名修了)

20日 第2回前期認知症介護指導者養成研修(16名研修中・9月7日まで)

22〜23日 第6回認知症地域支援推進員研修(札幌市・118名修了)



浴風会病院 診療案内 ⑮

リハビリテーション科

リハビリテーション科 室長 内山 真由美



リハビリテーション科は、理学療法士 17 名、作業療法士 15 名、言語聴覚士 4 名のスタッフで構成されております。患者様は 40 代～ 100 歳以上の方がいらっしゃいますが、ご高齢の方が多いです。この紙面では、普段よく聞かれるご質問にお答えしたいと思います。

Q 1 リハビリテーション訓練は、誰でも受けることができるの？

医師の指示のもと以下の病気をお持ちの方が、病院のリハビリテーション科で訓練を行っています。

・リハビリテーション訓練を行う主な病気

脳 の 病 気：脳梗塞、脳出血、パーキンソン病 など

手・足の骨折：大腿骨骨折術後、腰椎圧迫骨折 など

内科の病気：肺炎、慢性心疾患の悪化 などによる廃用症候群



Q 2 ① 理学療法 (PT) って何？

・寝起きの動作、乗り移りの動作や歩行、生活動作の訓練を行います。

・車いす、杖、装具など歩行を補助する道具をご紹介します。

② 作業療法 (OT) って何？

・生活動作や家事動作の訓練、手工芸などの作業を通して回復を支援します。

・箸やスプーンなど生活に使いやすい道具のご紹介をします。

③ 言語聴覚療法 (ST) って何？

・言語 / 構音機能の回復と、会話能力促進のための訓練を行います。

・嚥下障害の評価を行います。



Q 3 入院中のリハビリとそれ以外のリハビリの違いは何？

・入院と外来通院のリハビリは医療保険、訪問リハビリは介護保険で行います。

・入院中のリハビリは、ご自宅に退院するために、身体機能（起きる、座る、歩くなど）の回復と日常生活動作（食事、トイレ動作、歯磨きなど）の獲得練習を多く行います。

・訪問リハビリや外来通院のリハビリは、自宅などで生活しながら生じる課題に対して、生活環境の見直しや動作方法の変更など、より生活に合わせた練習が主になります。

・回復期リハビリテーション病棟入院中は、訓練が集中的に行われます。

*気になる事がございましたら、ぜひ浴風会病院の在宅医療・介護支援室へご相談下さい。

お問い合わせ先：03-3332-6511 (代)

編集後記

浴風会の名称は、論語先進編の「沂に浴し、舞雩に風し、詠じて帰らん」の中の 2 文字から選ばれたのは周知のとおりです。ところが文芸評論家尾崎秀樹著「歳月」を読んでいたら、浴風会と同じ語源が用いられているページに行き当たりました（石額の運命）。台湾において後藤新平民生長官のもと新聞人として活躍した著者の父、尾崎秀太郎邸の庭先に「詠沂園」と彫りこまれた扁額（横長の額）が残されていたというのです。台湾の銭湯にあたる盆湯の看板だったようです。「魯の城南にある沂の流れに浴し、舞雩の祭壇で（風に）涼み、詠いながら帰ろう」という意味だと記されています。論語の普遍性と広がりを感じました。因みにゾルゲ事件の尾崎秀実は、著者の異母兄にあたるそうです。

ご芳志

平成 30 年 7 月 16 日から

平成 30 年 8 月 15 日

多くの方々よりご芳情をいただきました。

ありがとうございました。

〈金品・物品〉

林 泰様、宮沢 郁子様

●ほか、各施設にもいただいて
おります。

【ご意見をお寄せください】

〒168-8510 ※住所なしで届きます

機関紙「浴風会」編集部係

soumu2@yokufukai.or.jp

http://www.yokufukai.or.jp/